



＜イタリア語への愛・すべては聖フランチェスコから ～私の原点、アッシジ～＞

イタリアとイタリア語を愛する皆さま、こんにちは！はじめまして、の方が多くかと存じます。このたびエッセー寄稿のご依頼を頂戴いたしました、すぎうらと申します。

今、このページを読んでくださっている皆さまは、どのようにイタリア語に初めて触れ、学習をスタートされたのでしょうか。十人十色、とても強い動機をお持ちの方も、「なぜだかわからないけれど、イタリアが大好き！」という方も、それぞれ素敵な理由ですね。そんなきっかけを伺いに、私は今すぐにも皆さまの元へ飛んで行きたいです。



ウンブリア州スベッコ
「インフィオラータ」の花びら絵

皆さまと同じように、私もイタリアとの素晴らしい出会いをいただいた一人です。イタリアとイタリア語。私の出会いをほんの少し書かせていただきたいと思います。

「動物と話せるの？小鳥たちが寄ってきて
静かに話を聞くの？すごい！かっこいい！」

それは8歳の時でした。フランシスコ会の教会に通っていた私に、あるひとりのシスターがアッシジの聖フランチェスコ (Francesco) の話をしてくれました。動物が大好きだった私の初恋と言えるでしょう。その瞬間から、聖フランチェスコへの想いがあふれ、「いつか必ずアッシジという町へ行く！」と、子どもながらに誓ったことを覚えています。その時のシスターの優しい笑顔、柔らかな西陽と修道院の一室の少し古い木の匂いは、今も私の脳裏に鮮明に焼き付いています。

イタリア語を学び始めたのも、すべては聖フランチェスコのためでした。その生まれた国、イタリアの言語で聖人の本を読みたい、カトリックの総本山バチカン市国の所在地イタリア、その言語で書かれた聖書を読みたい、そんな強い想いだけが、長い年月、私を後押ししてくれました。

ずっと胸に抱いていた「アッシジで暮らすための旅立ち」が実現したその日、スーツケース1つ持ってローマに降り立ち、アンコーナ行きの電車に乗り、フォーリーニョで乗り換え……、スベッコを過ぎて間もなく、目の前に飛び込んできた光景を私は生涯忘れることはないでしょう。ほんのりピンク色の中世の町が、やさしくも凛々しく、優雅に天空に溶け込むように浮かんでいました。アッシジ！それまで旅として訪れた時とは違う「今日からここで生活するのだ」という決意に胸がいっぱいになり、涙がこぼれました。

たくさんの時が流れ、私は今、横浜・山手イタリア山庭園のふもとで、イタリア文化をお伝えする小さなサロンおよびイタリア語教室を開き、本年で8周年を迎えます。創立時より、私のもう一人の Francesco と共に、ご受講くださる方々のイタリア語レベルの壁なく、常に軽快で楽しく新鮮にイタリア文化に触れ、イタリア語を学んでいただけるよう、誠心誠意努めてまいりました。今ではご受講くださる方々と、まるで家族のような温かい関係を築くことができ、感謝しかございません。

「いつか必ずアッシジという町へ行く！」小さき私の大きな誓いが、このような形になるとは想像さえもしていません。あの日、フランシスコ会のシスターが、私に聖フランチェスコの話をして下さらなかつたら…「シスター、ほんとうにありがとう」と伝えたいです。

イタリア、なんて美しい国なのでしょう。イタリア語、なんて美しい言語なのでしょう。イタリア語を読んでいると、時々その美しさへの感動に震え、涙があふれます。



アッシジの聖フランチェスコが、あの『神曲』で名高いダンテよりも前に、1200年代にウンブリア語で書いた祈りの詩 "Cantico delle Creature (被造物の賛歌)" は、私の道標です。この詩は Volgare (俗語) で書かれた最も古いイタリア文学と位置付けられているそうです。この詩を元に、イタリア在住のフランス人カトリック神父 Jean-Marie Benjamin が現代風にした歌詞にイタリア人作曲家 Riz Ortolani が曲をつけたのが、聖フランチェスコを主人公にした1972年の Franco Zeffirelli 監督映画『ブラザーサン シスタームーン』の主題歌 "Fratello Sole, Sorella Luna (兄弟なる太陽、姉妹なる月)" です。皆さまにぜひ、この美しい詞を読んでいただきたく、その一部を書かせていただきます。美しい曲なので、機会があったらぜひお聴きください！（歌詞の全文と大意は最終ページをご覧ください）

Ci ha dato il cielo e le chiare stelle,
fratello Sole e sorella Luna,
la madre Terra con frutti, prati e fiori,
il fuoco, il vento, l'aria e l'acqua pura,
fonte di vita per le Sue creature:
dono di Lui, del Suo immenso amore...

こんなにも美しいイタリア語と共に生きるよろこび。イタリア語の持つ無限の美に、私は、これからもずっと、心を奪われ続けるでしょう。いつの日か皆さまにお目にかかれることを願いつつ、イタリア語への限りなき愛をご一緒に深めていくことができれば幸いです。



末筆になりますが、検定運営に携わられているすべてのご関係者の皆様にご場をお借りし感謝申し上げます。そして最後に…私の人生の師のひとりであり、最愛の友であった元事務局長、故 M.H.女史に、永遠の感謝を贈ります。

【検定対策コラム：「命令」を意味するだけではない“命令法”をマスターしよう（4・5級レベル）】

イタリア語の動詞の法(modo)の一つに、命令法(modo imperativo)があります。命令法と聞くと、なんだか難しい用法のように聞こえますが、実は実用イタリア語検定の入り口、5級でも出題されている用法です。命令法とは言いますが、「命令」だけに使用するのではなく、「依頼」「勧告」「勧誘」なども表わし、初心者レベルの皆さんも、初期の段階で学び、命令法と意識しないまま使用している用法です。

例えば、Andiamo al bar.を見てみましょう。
andiamo は andare の1人称複数だと分かりますね。「現在の習慣的動作」を示す直説法現在としての使用が考えられます。意味は「私たちはバールに行きます」です。

Ogni giorno andiamo al bar alle 7.
「毎日私たちは7時にバールに行きます」

とすれば、より直説法現在であることが明確になります。

しかし、直説法現在ではない場合があります。

以下は、第47回(2018年秋季)5級で出題された、リスニング問題、N6のスク립トです。

F: Su, Andrea, andiamo! Sennò perdiamo l'aereo.
M: Sì, subito... Non trovo la guida di Parigi... Qui in camera da letto non c'è... Ce l'hai tu?
F: No, io no... Guarda sul tavolo in soggiorno...
M: No, non c'è...
F: Eccola, Andrea, è qui, sulla sedia accanto alla porta d'ingresso. Dai, andiamo!
DOMANDA: Dov'è la guida di Parigi?

【訳】(女) ほら、アンドレーア、行きましょう！ ないと私たち、飛行機に乗り遅れるわ。
(男) うん、今すぐ……パリのガイドブックが見つからないんだ……。ここの寝室にはない……君が持っているの？
(女) いいえ、私じゃないわ……。客間のテーブルの上をござんなさいよ……。
(男) いいや、ないよ……。
(女) あったわ、アンドレーア、ここよ、玄関のドア横の椅子の上よ。さあ、行きましょう！
(問) パリのガイドブックはどこですか？

ここでは、1行目と7行目の andiamo が、直説法現在ではなく、命令法の「勧誘」を示しています。命令法では、1人称複数「noi」と2人称複数「voi」が、直説法現在のそれらと同じ形であるということもあり、文脈やイントネーション、会話の雰囲気などで、命令法なのか、直説法現在なのか判断しなければなりません。命令法は、文の終わりにしばしば感嘆符(punto esclamativo)「!」を記しますので、その場合はすぐに命令法と判断できるでしょう。感嘆符をつけずに、命令法として使う場合もありますが、上記のスク립トの1行目の例文では、仮に感嘆符がなくても、文頭に su「ほら、さあ」という呼びかけがあるので、この場合は命令法であることが明確です。

最後の andiamo も、文頭で、dai「さあ」と呼びかけているので、命令法であると分かります。この dai は、英語でいう come on のようなニュアンスがあり、命令法とセットで用いられることが多いです。

Dai smettila!「やめてくれ、いいかげんにしろ！」smettila は smetterla の2人称単数

Dai sbrigatevi!「さあ、(君たち)急いで！」sbrigatevi は sbrigersi の2人称複数

Dai non prendertela!「そんなにくよくよ[気を悪く]すんなよ！」prendertela は prendersela の2人称単数。否定を示す場合は、non+不定詞現在とします。

ちなみにこの dai は、スポーツのシーンで監督やサポーターが選手を鼓舞するときによく使われます。

Dai corri!「さあ、走れ」corri は correre の2人称単数

さらに、左記の出題文には、もう一つ命令法の箇所があります。

4行目の Guarda sul tavolo in soggiorno の guarda です。こちらは、まさに「命令」を示す命令法です。

また普段何気なく謝るときや呼びかけるときに使用している scusare「許す」の scusa、scusi、scusate sentire「聞く」の senti、senta、sentite も実は命令法です。

Senta scusi, sa dove posso comprare un biglietto dell'autobus?

「あの、すみません。どこでバスのチケットを買えるか知っていますか？」

scusami、mi scusi、scusatemi などの scusare の命令法の活用+mi のように命令法と代名詞を組み合わせるとき、2人称単数・複数親称(tu/voi)は、代名詞が動詞の後ろに結合され、2人称単数敬称(Lei)は、代名詞が動詞の前に置かれ、こちらは結合されません。

再帰動詞の再帰代名詞の位置も、上記の代名詞と同様な位置となります。

alzarsi「起きる」Alzati! Si alzi! Alzatevi!

最後に、Andiamo al bar.の説明に戻りますが、以上の説明からこの文は直説法現在の「私たちはバールに行きます」という意味だけでなく、「勧誘」を示す命令法の「(私たちは)バールに行こう」の2つの意味があることが分かります。このように、直説法現在なのか命令法なのかと意識せずに、文脈や会話の雰囲気などから理解できるようになったら、大きな前進です！ ややこしい、文法事項が多いですが、Non mollate mai! (決してあきらめないで！(これも命令法です！))

<出会いは偶然?!>

有形（人や物）、無形（イタリア語）にかかわらず、それらとの出会いは偶然である。若い頃からサイクリングに興味を持ち、今もその趣味は続いているが、イタリアと言えば、名だたる自転車ブランドが生まれた国であり、憧れはあるものの、遠い存在であった。ましてや理系の私にとって、英語以外の外国語を真剣に学習する事になるとは夢にも思わなかった。

その出会いは6年ほど前に遡る。ある大学の生涯学習セミナーとして、“ゼロからのスタート”と称するイタリア語講座が開催される事を妻から聞いた。仕事もそれなりに忙しい時期ではあったが、幸い平日の夕刻に会社からの帰りに立寄ることができ、またワークライフバランスという言葉を目にするようになっていたので、新しい事にチャレンジするのも悪くないと考え、参加することにした。この偶然の出会いが、この記事の執筆に繋がることは……。

「継続は力なり」とは言うが、それを実行することは簡単ではない。その進歩は遅々としているものの、辛うじて継続できているのは、**1) 良き指導者たちに巡り会えたこと**：出来の悪い生徒であっても暖かく見守ってくれること、**2) 学友に恵まれたこと**：誤解を恐れずに言えば、同スタートの年長の方々が勉強熱心で、還暦前の自分が脱落する訳に行かないと思ったこと、**3) 身近な目標を立てること**：これが最も重要なのであるが、少し背伸びをしたら届きそうな目標設定として、イタリア語検定に臨むことにした。クイズを解くような感覚で、楽しみながら日々、問題集に取り組んでいる。この歳になっ

ても試験当日の緊張感と合格通知が届いた時の嬉しさは格別である。

コロナ禍において、生涯学習セミナーは休講が続いて



ているが、以前、散歩途中で巡りあったイタリア文化を紹介する教室のレッスンを再開し、オンラインで受講している。自転車以外の街・食・音楽や映画などの多彩なテーマに触れる機会を得ることができ、イタリアへの関心が深まった。3級の合格と共に、還暦祝いとしてハンドメイドの自転車を注文するため現地に赴き、職人の方々と自転車談義をする事を夢見ている。

L'avvenire giace sulle ginocchia di Giove!

2019年 48回 5級・49回 4級合格 3級挑戦中
橋本光行

<たった3つの単語力から3級挑戦まで>

実用イタリア語検定を久しぶりに受験しました。秋季春季続けて2回トライしていくうちに検定の旨みを知ることができました。秋季は1点足らずで合格を逃し少し凹み、次は満点を狙おうと春季受験に挑み楽しく検定の日を迎えることができました。それは、楽しく時間をかけてひとつずつ間違いを正そうとしてくださる先生の存在があったおかげでした。先生に出会ったのはイタリア語検定協会のHPでした。

イタリア語学習を始めた頃、軽やかでリズムのある茶目っ気たっぷりのイタリア語のフレーズをひとつまたひとつと覚えるのが楽しく、それでいて意味深いイタリア語を使った



旅を楽しもうと思っていたのですが、いつしかたくさんの文法を理解するのに戸惑い、新しく学ぶことが苦痛になりかけていた時期もありました。イタリア語検定を続けて受けたことでまた、楽しく旅をするために学ぼうと思えるようになりました。

イタリア語に魅せられたきっかけは昔友人の仕事に便乗しイタリアに行った時のこと。Milano/Firenze そして Bologna を訪れイタリアの文化と街並みや人々、ウフィツィ美術館で観た有名な美術作品の数々にとても感動

を覚えたのが始まりです。その時覚えて行ったイタリア語はたった3つ、Buongiorno・Ciao・Grazie。これでは現地の方と話すどころではないのにイタリア人たちは優しくわかるようにジェスチャーを交え言葉を伝えてくれました。

もっと語彙を増やし会話して楽しい旅にしたい、そう思い学習を始めたのですが、増えたのは語彙だけではなく、同じくイタリア語学習を学ぶ友達や先生達でした。イタリア各地の情報を知り得ることで「もう少し話せるようになったら……。行ってみたい、地方の町へ！」と想いも膨らんでいき、イタリア語学習を始め、目には見えないたくさんの宝物を受け取り吸収することができました。



心に残る旅の思い出は、「ひとつの町で暮らすように生活してみたい」とアパートを借り、毎朝決まった所を歩きバルに行ってはカメリエーレと片言でもお喋りをする。とても良い経験となりました。今も、横浜港の汽笛が間近に聞こえる教室で、毎月テーマを変えて開催されている文化講座に参加してはイタリアを想い、またイタリアの旅を続けられるよう3級、そして次の目標を目指そう思っています。

3級挑戦中 Imada Kayo

※ 表紙の<イタリア語への愛・すべては聖フランチェスコから>への補足

“Fratello Sole, Sorella Luna” 全文

Dolce è sentire come nel mio cuore ora umilmente, sta nascendo amore. Dolce è capire che non son più solo, ma che son parte di una immensa vita, che generosa risplende intorno a me: dono di Lui, del Suo immenso amore.

Ci ha dato il cielo e le chiare stelle, fratello Sole e sorella Luna, la madre Terra con frutti, prati e fiori, il fuoco, il vento, l'aria e l'acqua pura, fonte di vita per le Sue creature: dono di Lui, del Suo immenso amore, dono di Lui, del Suo immenso amore.

「今、わたしのこころの中に、愛がそっと、つつしみ深く芽生えていると気づくこと、もう、ひとりではなく、わたしを包む豊かで光り輝く果てしないのち、その一部がわたし自身であるとわかるのは、やさしく甘美なことです」と静かに語り始めます。そして「神はわたしたちに、まばゆい星をちりばめた天、兄弟なる太陽、姉妹なる月、母なる大地とそのあふれる実り、生い茂る草、花々… 炎、風、空気、清らかで澄んだ水を与えてくださいました」と続き「その水は神によって造られたすべてのものの、いのちの源です」と讃えます。最後に「すべては造り主である神の、限りなくとこしえの愛によるたまもの（恵み）です」と賛美しています。

大意/訳 すぎうらゆき

監修 谷崎新一郎

コンベンツアル聖フランシスコ修道会日本管区管区長

検定ニュース

▶第54回 2022年春季検定は1週間程度の期間を設け、オンラインでの開催を検討中です。日程や実施方式などは、この原稿を書いている時点ではまだ公表できる段階ではありませんが、随時公式サイトに発表してまいります。秋季検定は従来通り実会場で実施します。

▶昨夏に発売予定だった2020年版過去問題集は、第50回検定試験が新型コロナウイルスにより中止となったため、出版を見送らせていただきました。なお、昨年秋の第49回分に関してはe-ラーニングとコンビニのeプリントでお買い求めになれます。2021年版過去問題集については、今夏に発売予定です。

事務局よりホームページ活用のお願い

www.iken.gr.jp

検定試験のお知らせだけでなく、イタリア関係の情報・学校・リンク集など情報を満載しております。豊富な過去問題をe-ラーニングやコンビニのeプリントで配布していますし、無料サンプルも大量に掲載しています。また、情報交換の場として掲示板をご用意しています。ご活用いただければ幸いです。

2021年春季 第52回実用イタリア語検定 申込者数					
	準2級	3級	4級	5級	合計
札幌	2	10	12	9	33
仙台	7	6	5	8	26
新潟	3	1	4	6	14
東京	105	170	173	115	563
横浜	17	30	30	35	112
金沢	4	5	4	9	22
名古屋	12	19	29	16	76
京都	13	29	43	19	104
大阪	33	50	65	41	189
岡山	2	2	4	4	12
広島	0	2	11	7	20
福岡	6	12	9	18	45
宮崎	0	1	1	1	3
那覇	0	2	3	3	8
Roma	イタリア会場は中止となりました。				
Milano					
合計(前年)	204 (264)	339 (448)	393 (562)	291 (396)	1,227 (1,670)

<2021年度の試験日程ご案内(予定)>

◆ 第53回 2021年10月3日(日) ◆ 第54回 2022年3月初旬

第54回以降、春季検定はオンラインで実施する計画です。秋季は従来通り実会場で開催です。

『[音声DL付] 例文と覚える イタリア語 必須イディオム・連語 1493』



Le Ali 第26号にエッセーを寄稿してくださいました本多先生の新刊が発売されました。当協会試験のアンケートでもたくさんのご要望をいただいていた待望のイディオム集。例文読み上げの音声が付いています。

定価 2,750円
(本体 2,500円 + 税 10%)
発行・発売 ベレ出版
本多 孝昭 (著)

『1か月で復習するイタリア語 基本の500単語 [CD+テキスト]』



最初に覚えなければならぬ必須の500単語を厳選。実際の生活の場で使用する「生きたイタリア語」のフレーズを用意し、文法の解説も付いています。検定5級の対策としても対応。(検定協会事務局スタッフ執筆)

定価 1,760円
(本体 1,600円 + 税 10%)
発行・発売 語研
佐藤徳和 + 北野美絵子ジュリア (著)